

# 「ヒロセ」と「ハマダ」の技術融合 小型UVコーター機、高速・高品質化を実現

長年にわたり、コーティングマシンを手掛けて実績を積み、廣瀬鉄工(株)(大阪市東成区・廣瀬安宏社長)と、段ボール印刷機、小型オフセット印刷機など、幅広い分野で実績を持つハマダ印刷機械(株)(兵庫県三田市・黒岩啓司社長)との技術コラボレーションによって、先頃小型機でありながらオフライン方式による本格的なフレキシオンUVコーティングマシン「SAC-18」が完成した。

初公開となった昨年のIGAS2007会場において観客の注目を集めた「HIROSE SAC-18」。多年にわたって両社が育んできた技術の粋を融合させた同製品は、塗料メーカーの研究開発協力も加わり、昨今の印刷業界に求められる小ロット・短納期、そして高級・高品質化の提案・提供など、競争社会の中で印刷企業の特徴づけや差別化戦略の上でも注目されている。

廣瀬鉄工は、大正10年に石版印刷機製造業として創業。昭和3年に手差しオフセット印刷機開発以来、2色・4色オフセット印刷機で実績を積み上げ、昭和55年にはインライン方式のニスコーティング装置を開発して印刷物の高級化・高付加価値化への提案を開始した。

以来相次いで新製品を開発し、現在では高速枚葉グラビア印刷機「HGシリーズ」に高速枚葉フレキシオン印刷機の「ACシリーズ」、そしてオフセット印刷機の技術とノウハウを活かした高速枚葉印刷検査機の「SKSシリーズ」、刷版検査機「PLCシリーズ」などを発表して印刷物の品質安定の分野でも貢献しており、中でもフレキシオンUVコーティングの分野ではA倍から菊四サイズをラインアップさせている。

一方、ハマダ印刷機械は大正6年、我が国初の平版印刷機製造業として創業。昭和21年に新聞輪転印刷機の製造を開始以来、全面多色凸版輪転機、段ボール用フレキシオン印刷機などを相次いで開発し、昭和29年に枚葉自動オフセ



廣瀬安宏社長



黒岩啓司社長

ット印刷機を開発して今日の同社における枚葉印刷機部門の基礎を築くに至った。その後、小型オフセット印刷機を含めて次々と新製品を発表するなど、国内総合印刷機メーカーとしての役割を果たしてきた。

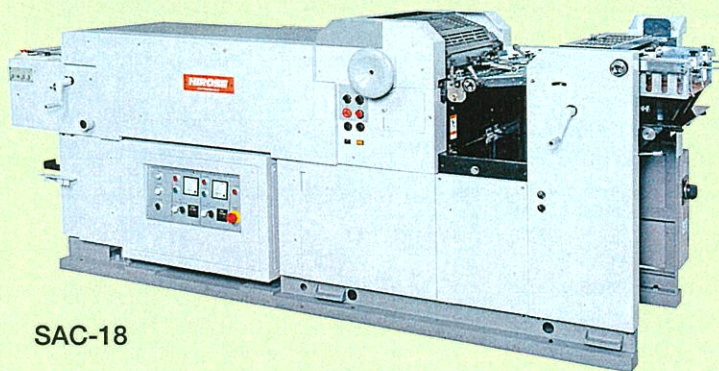
現在では輪転部門を切り離して商業用・事務用オフセット印刷機や周辺機器の他、段ボール用高速フレキシオン印刷機や同製函機、各種段ボール加工機などのグローバル企業として活動を展開しており、最近では封筒印刷に最適な機能と装置など、専門化するための数々の独自技術を組み込んだ封筒専用4色機「EV-Master(イーブイマスター)角0~長4対応」を発表した。

今回、両社の技術コラボレーションで製品化された小型フレキシオンUVコーター「SAC-18」は、創業85年の廣瀬のコーター製造技術に、創業90年のハマダの紙搬送(給・排紙)技術を融合させ、毎時6,000枚のスピードでスポット、あるいは全面コーティング(最大塗面積454×350ミリ)をオフラインで処理する能力を有する小型機(最大用紙469×365ミリ・最小(はがきサイズ)90×140ミリ)ながら高品質化・高付加価値化を実現させるもの。

今や高品質化、短納期化への対応は印刷および関連企業としての条件の一つであり、当然と言えば当然のこと。厳しい競争社会の中で如何にして企業を特徴づけるか。

どのように他社との差別化を図るか。投資対効果の追求も企業として大きなポイントであるとき、大量物のインライン加工に対し、昨今の印刷市場(ニーズ)の変化に沿った小ロット物の短納期対応、高付加価値化の提案や高級感に満ちた品質提供は企業戦略上の一つとしても大きく位置づけできよう。

ハマダの全国内販売拠点をはじめ、海外の販売・サービス網を活用するなど、両社共同販売が展開されている。



SAC-18